

## カリフラワー(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	根こぶ病	べと病	黒腐病	軟腐病	菌核病
アフエットFL	アミド	7		1	3						◎
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1		1	2						◎
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1		7	3						◎
ヨネポン水	有機銅	M1		1	4			◎			
オラクル顆水	他	21		*c	1	☆	◎				
					2		◎				
オラクル粉	他	21		*c	2		◎				
オリゼメート粒	他	P2		*b	1					◎	
スターナ水	他	31		14	2					◎	
ダコニール1000FL	他	M5		*d	3			◎			
ネビジン粉	他	36		*a	1		◎				
ネビリュウ粉粒	他	36		*c	1		◎				
フロンサイドSC	他	29		*c	1		◎				
フロンサイド粉	他	29		*a	1		◎				
ライメイFL	他	21		7	4			◎			
ランマンFL	他	21			3	4		◎			
					14	1		◎			
					*e	1	☆	◎			

\*a:播種又は定植前 \*b:定植時 \*c:定植前 \*d:出蕾前(但し収穫14日前まで)

\*e:定植前日～当日

☆:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用方法は、土耕栽培による苗には使用できない。

カリフラワー(野菜類、ハナヤサイ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ミ ウ シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	カ ブ ラ ハ バ チ	コ ナ ガ シ	ア オ ム シ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ シ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	ウ ワ バ シ 類	ネ キ リ ム シ 類	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	コ ガ ネ ム シ 類	そ の 他 害 虫		
																					性	数
スピノエース顆水	ｽﾍﾞﾉｼﾝ	5		3	3					◎												
アタブロン乳	I G R	15		7	2					◎												
カウンター乳	I G R	15		7	2									◎								
フェニックス顆水	ｼﾞｬﾏﾄﾞ	28		1	2					◎		◎	◎									
ブレバソンFL 5	ｼﾞｬﾏﾄﾞ	28		*d	1	☆				◎	◎			◎								
					1	3				◎	◎			◎								
ベリマークSC	ｼﾞｬﾏﾄﾞ	28		*d	1	☆				◎	◎			◎								
ディアナSC	ｽﾍﾞﾉｼﾝ	5		1	2			◎		◎	◎	◎	◎	◎								
アクタラ顆溶	ｽﾄﾞｺﾅｲﾄﾞ	4A		7	3		◎															
アクタラ粒5	ｽﾄﾞｺﾅｲﾄﾞ	4A		*c	1		◎															
ベストガード溶	ｽﾄﾞｺﾅｲﾄﾞ	4A		1	3		◎	◎														
モスピラン顆溶	ｽﾄﾞｺﾅｲﾄﾞ	4A	劇	7	3		◎			◎	◎											
アディオソ乳	ﾋﾞﾞﾙｽﾛｲﾄﾞ	3A		3	5		◎			◎												
ガードバイトA粒	ﾋﾞﾞﾙｽﾛｲﾄﾞ	3A		*e	5													◎				
プリンスFL	ﾌｪﾝﾋﾞﾗﾞﾞｰﾙ	2B	劇	14	2					◎		◎										
アニキ乳	ﾏｸﾞﾗｲﾄﾞ	6		1	3					◎				◎								
アフアーム乳	ﾏｸﾞﾗｲﾄﾞ	6		3	3			◎		◎	◎				◎							
ジェイエース溶	有機リン	1B		14	3								◎									
ダイアジノン乳40	有機リン	1B	劇	30	2		◎			◎	◎								◎		キケ	
ダイアジノン粒5	有機リン	1B		*a	2													◎				
				*b	1														◎			
					30	2																◎
マラソソ乳	有機リン	1B		3	5		◎	◎	◎		◎											
アクセルFL	他	22B		1	2					◎	◎		◎									
ウララDF	他	29		14	2		◎															
グレーシア乳	他	30		7	2			ネ		◎	◎			◎								
コテツFL	他	13	劇	3	2					◎												
コルト顆水	他	9B		1	3		◎															
ハチハチFL	他	21A	劇	3	2					◎												
ファインセーブFL	他	34	劇	3	2			◎		◎	◎											
ブレオFL	他	UN		3	2					◎			◎	◎								
プロフレアSC	他	30		1	3					ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ						
アベイル粒	ｽﾄﾞｺﾅｲﾄﾞ・ｼﾞｬﾏﾄﾞ	4A・28		*d	1						◎			◎								
ミネクトデュオ粒	ｽﾄﾞｺﾅｲﾄﾞ・ｼﾞｬﾏﾄﾞ	4A・28		*c	1		◎			◎												

\*a:播種時又は定植時 \*b:定植時 \*c:育苗期後半  
\*d:育苗期後半～定植当日 \*e:生育初期

キ:キボシマルトビムシ ケ:ケラ ネ:ネギアザミウマ ハ:ハナヤサイ類での登録

☆:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用方は、土耕栽培による苗には使用できない。

カリフラワー

## カリフラワー(野菜類、ハナヤサイ類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生消長		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病 害	春まき						—						
	黒腐病			—	—	—							
	夏まき (秋どり)								—	—	—	—	—
虫 害	黒腐病								—	—	—	—	—
	コナガ			—	—	—	—	—			—	—	—
	アオムシ				—	—	—	—			—	—	—
	ヨトウムシ アブラムシ類		—	—	—	—	—	—			—	—	—

作 型 一 ; 栽培期 一 ; 収穫期  
病害虫発生消長 一 ; 発生期 一 ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根こぶ病	播種前または定植前	<ol style="list-style-type: none"> <li>畑の排水を良好にするか、または高畦栽培とする。</li> <li>石灰施用により土壌酸度を矯正する。</li> <li>定植直前に次の薬剤のいずれかを土壌混和する。                      オラクル粉剤 全面処理 30kg/10 a                      作条処理 20kg/10 a                      ネビジン粉剤 全面処理 20~30kg/10 a                      作条処理 20kg/10 a                      フロンサイド粉剤 全面処理 30~40kg/10 a                      作条処理 15~20kg/10 a                 </li> </ol>	各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。ダイコンでは被害はほとんど見ない。 夏から秋にかけて、高温多湿の年、夏まきに多発する。 春先にアブラナ科作物を栽培した畑で、秋も連作すると多発しやすい。トウモロコシやジャガイモの後作では被害が軽い傾向がある。 薬剤は地層10~15cmの土壌と十分に混合する。
	生育期および収穫後	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病株は根、特にこぶを圃場に残さないように早めに処分する。また収穫後、残渣はていねいに処分し、畑にすぎこまない。</li> </ul>	
根朽病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> <li>高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。</li> </ul>	キャベツ、カリフラワーなどに被害が多く、土壌伝染をする。秋穫りの幼苗期~生育中期にかけて発生が多い。強風は本病の発生を助長する。
	定植時	<ul style="list-style-type: none"> <li>植え傷み、特に地際部に傷をつけないよう注意する。</li> </ul>	
	育苗期~生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病株は早めに処分する。</li> </ul>	
苗立枯病	播種前および播種時	<ol style="list-style-type: none"> <li>過密な播種を避け、苗床の過湿に注意する。</li> <li>高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。</li> </ol>	病原菌はリゾクトニア菌の場合が多いが、育苗中に雨が多い年にはピシウム菌によることもある。

## カリフラワー(野菜類、ハナヤサイ類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒腐病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	各種アブラナ科作物に発生し、土壤伝染する細菌病の一種。
	生育期	1. 病原菌は害虫の食害痕などから侵入するので、害虫の防除を徹底する。 2. 発生前から次の薬剤で予防する。 ヨネポン水和剤 500倍	5月および9～10月頃、比較的気温が低く雨の多い年に発生しやすい。とくに台風などによる強い風雨は、茎葉に傷をつけるため本病の発生を助長する。
アブラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオン乳剤 2000～3000倍 ウララDF 2000倍 ダイアジノン乳剤40 1000倍	
アオムシ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 1000～2000倍 エコマスターBT* 1000～2000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍	老熟幼虫は薬剤が効きにくいので、小さいうちに駆除する。
コナガ	生育期	1. 広範な地域で設置可能であればコナガコン◇を8～10m間隔に支柱を立て、たるまないように畝に平行に100～110m/10a 又は20cmチューブを200本/10a設置する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオン乳剤 2000倍 アフーム乳剤 1000～2000倍 エコマスターBT* 1000～2000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍 コテツフロアブル 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 5000倍 ダイアジノン乳剤40 1000倍	*野菜類での登録 発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。 幼苗期には芯葉を好んで食害し、花蕾期には花も加害する。 ◇成虫の交尾阻害が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。
ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)	幼苗期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍	夏が高温乾燥のときに多発する傾向があり、8月上旬以降急増する。生育初期の加害では芯止まりとなる。
			*野菜類での登録

## カリフラワー(野菜類、ハナヤサイ類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ヨトウムシ	生育期	<p>1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第捕殺する。</p> <p>2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>エスマルクDF*                   1000倍</p> <p>ジェイエース水溶剤           1000倍</p>	<p>5～6月と9～10月の2回発生する。</p> <p>若齢期は葉裏に集団で生息し、表皮を残し葉肉をかすり状に食害する。このような食痕を発見したら、薬剤を葉裏に丁寧に散布する。老熟幼虫は薬剤が効きにくい。</p> <p><b>*野菜類での登録</b></p>
ハスモンヨトウ	生育期	<p>1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第捕殺する。</p> <p>2. 広範な地域で設置可能であればフェロディンSL*1を2～4個/ha・トラップ1台当たり1個を取付けて配置する。</p> <p>3. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>エコマスターBT*2               1000倍</p> <p>プレバゾンフロアブル5       2000倍</p>	<p>春から初冬まで数回の発生をするが、多くなるのは8月下旬からである。</p> <p>*1アブラナ科野菜での登録。雄成虫の誘因(大量誘殺)が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。</p> <p>*2野菜類での登録</p>
ネキリムシ類	生育初期	<p>1. 被害のあった株元の土を調べ、幼虫を捕殺する。</p> <p>2. 次の薬剤を株元に施用する。</p> <p>ガードベイトA(粒)           3kg/10a</p>	<p>幼虫は夜行性で昼間は浅い土中などに潜り。</p>
キボシマルトビムシ	生育期	<p>・発生を見たら次の薬剤を散布する。</p> <p>ダイアジノン乳剤40           700倍</p>	